週目点

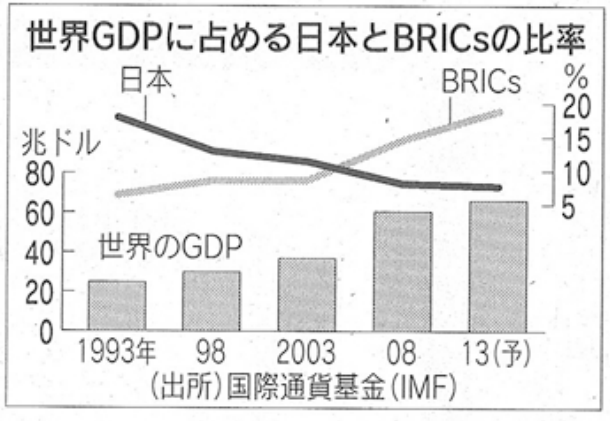
早稲田大学教授
川本　裕子

▶BRICs首脳会議（16日）

国際的な発言力強化で協力

新興国の代表であるBRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）の首脳会議が16日、ロシア中部のエカテリンブルクで開かれる。サミットの場を利用して4カ国首脳が会談した例はあるが、定例化を目指した首脳会議は初めて。BRICsは世界経済回復のエンジン役として期待され、関心が高まっている。

会議では金融危機への対応や地球温暖化問題などが議題となる予定。新興国と言っても各国間の違いは大きい。ロシア経済は資源価格の下落で大きく減速。中国は高成長を取り戻しつつも、地域間格差の克服を課題として抱える。ブラジルやインドは財政赤字を含め、改革の続行が成長持続のカギを握る。



(出所)国際通貨基金(IMF)

会議の狙いは、国情の大きく異なる4カ国が結束力を強めて、国際的な発言力を確保する点にあるだろう。ただし、政策協調の場が主要7カ国（G7）から新興国を加えた20カ国・地域（G20）に移るという見方は単純すぎる。20カ国・地域では効果的な意見集約が難しいからだ。いずれG7に代わる新たな数カ国の中核メンバーが、国際交渉の主導権を握っていく形になるだろう。どこまで4カ国が協調できるかが注目される。

そこで気になるのが日本の今後の国際的地位だ。日本は世界貿易機関（WTO）の多角的通商交渉（ドーハ・ラウンド）の農業交渉で中核メンバーから外されるという苦い経験をした。日本は農業をはじめとする国内改革に真剣に取り組まなければ、国際交渉の場で主要メンバーとなることに黄信号がともる。

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。